

松風館十勝碑

上段:碑銘 中段:命名・墨書した人 下段:説明

	1. 松風館 しょうふかん らいきょうへい せんき ほんじゅ 頼杏坪 字:千祺 (広島藩 藩儒)		2. 棟棠橋 ていとう きょう くらなり りゅうちよ ぶぜん なかつほん ほんじゅ 倉成龍渚 通称:善司 (豊前中津藩 藩儒)
	君推の建てた客殿の名 松林を縫って松籟(しょうらい)が四季折々の 音曲を奏でていたのであろう。		山吹が溪流に架かる橋の両岸に植えられてい たらしい。棟棠は「棟(ニワウメ)と棠(ヤマナシ)2種 の木」の説もある。

	3. 鳥語澗 ちょうごかん あかさき げんれい ほんじゅ 赤崎彦禮 (薩摩藩 藩儒)		4. 鳴玉橋 めいぎよく きょう かん ちあん しんけい 菅恥庵 字:信卿 (茶山の末弟)
	小鳥のさえずりが途絶えることのない溪流		清流が玉を鳴らすように、ちよろちよろと流れて いたらしい。

以上の四勝は、「池亭四勝標柱」という4角形木柱の各面に記され、各勝のある方向を示していた。

墨書したのは永富充国で、寛政戊午竹酔日 寛政10年(1798)5月13日に書いている。

*十勝の完成には、その後約16年の歳月がかかっている。「魚楽梁」建立は文化12年(1814)とされる。

	5. 迎碧墩 げいへきとん しばのりつざん 柴野栗山 (讃岐の人 昌平黌教授)		6. 浸翠池 しんすいち やまもとほくざん しんゆう 山本北山 名:信有 (江戸の儒者)
	眺望ができる碧苔で蔽われた小高い丘陵 地		唯一現存している石標で、現物は近所の親戚筋の庭に残さ れている。 石碑には茶山の記文があり、文化元年(1804)に江戸滞在中 の茶山が君推のために書いてもらったとある。 石碑は文化2年(1805)1月に刻まれた。

	7. 紅於徑 こうおけい いわせ ほるぬま ひぜん しちげらはん 岩瀬華沼 (肥前島原藩 藩儒)		8. 魚楽梁 ぎょらくりょう かめだ ほうさい 亀田鵬齋 (江戸の儒者)
	山田谷の奥へたどる、楓の茂った小徑であろ う。		水を堰き止め魚を捕る所(梁) 魚を放った水溜まり

	9. 垂白棚 すいはくほう 紫源 (不明)		10. 娯論亭 ごろんてい 菅茶山
	枝垂れ白藤が咲き誇る藤棚		文学の論考を楽しむ所という意味で、林泉 の亭の一つであらう。

松風館十勝碑の解説

・十勝が広く知られたのは、昭和15年に猪原薫一、濱本鶴賓両氏が『備後史談十六卷』に発表されてからです。

発端は、十勝の名称を記した原本を表装した衝立が、発見されたことでした。

・十勝名は元々、木柱、石碑、木製扁額に記されていましたが、今はすべて石碑に刻んでいます。

・石碑の材料は、輸入石材など各地の多種類の銘石が選ばれています。

・十勝がどのように配置されていたかは不明ですが、残された詩歌、文献や地形などから推定しています。

次頁の「松風館十勝推定地図」をごらんください。(2021年3月作成)